

令和7年度 授業改善推進プラン <技術・家庭 技術分野>

大田区立大森第十中学校

○技術・家庭(技術分野)における令和6年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・身近な内容を取り上げることで、自分の生活を見つめるきっかけをつくることができた。
- ・生物育成において、人の手によって生み出された生物についての学習を通して、授業に関心を持たせることができた。

<課題>

- ・日常での生活経験の乏しい生徒が多く、基本的な技術科の知識及び技能を定着させる必要がある。
- ・教科に対して苦手意識を持っている生徒も一定数いるため、苦手意識を持つ生徒に対して「わかる授業」「ためになる授業」を展開する必要がある。

○技術・家庭(技術分野)における観点別の分析

知識・技能

- ・タブレットの活用や個別指導により技能を一時的に習得することはできるが、習得した技能を生活の中で活用することが少ないため、さらに技能を向上させることや定着を図ること、学んだ内容を実生活に活用する喜びを感じさせることが難しい。

思考・判断・表現

- ・生活をより良くしようと実生活の中で自ら問題に気付く力や課題を設定する力を育むことはできだが、課題を解決する方法や実際に解決する力の育成が不十分である。

主体的に学習に取り組む態度

- ・苦手な内容や興味・関心がない内容になると消極的になったり投げやりになったりする生徒もあるため、全体指導と個別指導の両方を取り入れる必要がある。
- ・木材加工に対して苦手意識をもつ生徒への指導を工夫する必要がある。
- ・自分の生活と社会の関わりについて理解を深め、身の回りの生活の中で適切に知識・技能を活用する態度の育成が必要である。

○分析に基づいた授業改善のポイント

1 生活の中で問題を見つけ、課題を解決する力を養うための学習活動の充実

日頃の授業において、問題を見つけ解決する力を養う取り組みを行う。1人では考えることが難しい生徒もいるので、グループで教え合い、他者の指導を通して学ぶ機会も設定する。

2 「わかる」「ためになる」授業を行い、関心意欲につなげる。

生徒の日常生活に活用しやすい内容を多く取り上げ、教材を工夫する。全体指導と個別指導のバランスをとり、苦手意識のある生徒には各自の知識技能の習得状況に応じた対応をする。

○技術・家庭(技術分野)の授業改善策

第1学年

- ・生徒自身が自分の生活に置き換えて考えやすい内容を多く取り入れた授業を行う。また実生活で活用しやすい内容を多く取り扱う。
- ・全体指導と個別指導を取り入れながら、基本的な技術科の知識と技能の定着を図る。

第2学年

- ・生徒自身が自分の生活に置き換えて考えやすい内容を多く取り入れた授業を行う。また実生活で活用しやすい内容を多く取り扱う。
- ・全体指導と個別指導を取り入れながら、基本的な技術科の知識と技能の定着を図る。
- ・班で問題解決学習をすることで、他者の意見に触れ学びを深める。

第3学年

- ・自分の生活や社会における問題点を見つけ、既習事項を活用しながらそれらを解決する方法を考え、実践できるようにする。
- ・自立した生活を送るために、学んだことを活用し、よりよく生きようとする意識を高める。